

平成 30 年度 第 4 回政策討論会第一分科会要点記録

日時 平成 30 年 10 月 23 日（火）午前 13 時 00 分～14 時 05 分
場所 第一委員会室
出席者 池内 矢一（座長）
岩崎 雅秋（副座長）
澤田 和代
南 加代子
井舎 英生
稲田 悦治
今口 千代子
鳥居 宏次
前田 将臣

○前回は「地域でボランティア活動を気持ちよくできるように」とありましたが、ご意見はありますか。

- ・小学校で子ども達が書いた感謝状が手渡しで隊員に渡されます。
- ・地域の方々も高齢化などで協力も難しくなっている。また、老人会に入ったら見守りに参加を求められるので、加入をしぶるという方もいるようである。地域の協力で始まった活動と思うが、今後 PTA にも協力を求めていく必要があるのではないか。
- ・PTA 活動の補導安全係は年間数回の朝登校の見守り活動をしていて、交差点など危険な箇所に地域の老人会などが中心となって朝の見守り隊、下校時に校門の前に立つ見守りボランティアなどが個々バラバラになっているので、行政として、学校としてどう関わるのか、これは子どもを中心とした情報共有できる土台をつくるべきではないか。登校も大事だが、不審者による声掛けや追いかけてくる事案が下校時に起こっているので、下校の見守りについても考えていかないといけない。老人会の方で体調が悪い方にも見守り隊を依頼され困惑している話を聞いている。人材確保・情報共有・下校見守りが課題である。
- ・老人会に負担がかかっている。事故があってはならない。ボランティア自身の安全も必要である。
- ・行政の中で一括して情報共有できる場を作って頂きたい。
- ・小学校の行事（例えば運動会）に見守り隊の方を招待するとか、感謝を込めた何かを渡すとかをすれば良いと思う。
- ・所管する部署が必要なのか、事業として必要なのかどうかを明らかにして、その結果部署をつくるかどうかを判断すべき。今はほったらかし状態で教育委員会・行政が関わろうとしていない。
- ・小学校区ごとに〇〇校区子どもの安全見守り隊を年度初めに編成し、各町会・自治会においてボランティアを募集・お願いして委嘱状を渡す。
- ・見守りボランティアの人数は、できるだけ多い方が良く、校区ぐるみの見守り活動、校区全体で子どもの登校を見守っているという意識を醸成する。年度初めに、見守り隊の全員が集まり（地域交番の警察官も参加）年間活動スケジュール表の確認、登下校道路の危険箇所・改善の要望および

見守り上の問題点を発言・確認して、校区長・校長先生が行政へ要望する。

・下校時は時間が長いし難しい。

○それでは行政はどう関わってサポートしたら良いかについてご意見はありますか。

・校区ごとなので校長先生がよく分かっている。学校推進協議会の校長が集まるところで課題を出し、市全体で情報交換していく。

・校区単位で情報共有なので例えば市民協議会の時、各町会長・校長先生・PTA 会長が集まっている場で「見守り隊」の現状を知って頂き、課題を話し合い行政にサポートしてもらおう。

・最大の課題は、所管する担当課を早急に設置することである。設置するには、岸和田市及び教育委員会が、有償ボランティア・無償ボランティアの「子どもの見守り隊」を重要な位置づけとして捉えているのか疑問である。有償ボランティアの参加者がいない3校区に対する対応すらしていないことから推測できる。このような相手任せの無責任な状況下では成果を得ることは出来ない。行政として事業の推進を図るのか、或いは、本事業に代わる事業を検討するのか、本事業の目的を再度検討し、担当課の設置をすることが必要である。本事業を継続するならば、各小学校校区において、校長が実施しているPTAや見守り隊等との意見交換において集約した意見などを「通学路安全推進会議」へ報告する。内容はハード面の通学路改修関連のみの報告だけでなく、集約された意見・要望すべてを報告することにすべきである。一方、推進会議の構成員としてPTA及びボランティア代表者を増員し、道路改修関係だけではなく、警察署交通課の他、防犯課も構成員として参加頂けるのがベストであるが、せめて防犯関係などの情報を提供して頂き、推進会議の目的を現在協議されているハード面だけでなくソフト面も協議することが必要と考える。道路改修だけではなく不審者情報などの情報共有によって、対応策などを協議し具体的な対応をすることが出来、本来の子どもの安全・安心を確保する会議として、機能を拡充・充実すべきである。推進会議の充実により、ボランティアなどからの意見・要望が一つでも着実に具現化すれば、より一層、活動するボランティアの方々のやる気を増幅させ、使命感も増すのではないかと考える。要は、行政側の取り組む姿勢の問題が浮き彫りになったと思っている。真剣な取り組みを期待する。今一度、「見守りボランティア」の意義を問う。市民が勝手にしているボランティア活動として放置して、市民自治都市の実現はない。市民を育てる。育てる工夫・仕掛けを常に考え実践することが最も重要である。

・「岸和田市通学路安全推進会議」の取り組みを広い意味での安全（見守り活動など）についても議論して頂きたい。

・ひとつの校区をモデル地域として行政が育てていく。

○次回は「通学路安全推進会議」の議事録の開示と素案づくりです。